

令和6年度学校だより



三川内中心ひとつに

「全員が毎日楽しく登校できる学校づくり～継続～」

校訓「自主・誠実・健康」

NO.16

令和6年7月4日（木）

文責：校長 大田勝明

三川内っ子のいのちかがやく講演会



6月24日（月）、本校卒業生でダンス教室インストラクターの淵野笑花先生をお招きし、三川内っ子のいのちかがやく講演会を実施しました。自分の生い立ちから始まり、今の仕事を始めるきっかけ、仕事のやりがいや苦労、今後の目標などの話をいただきました。最後には、ダンス教室に所属している生徒5名とのコラボレーションダンスも披露いただきました。卒業生の頑張っている姿、輝いている姿を見ることができ、また、学校外で楽しく活動している子どもたちの姿を見ることができて、本当に嬉しい時間となりました。

6. 29平和集会



6月28日（金）、6. 29平和集会を行いました。今年度は、各学年でテーマを設定し、事前に4時間の調べ学習を行い、当日はその発表会としました。1年生は「佐世保空襲を知る」、2年生は「佐世保空襲を伝える」、3年生は「佐世保空襲をつなぐ」。各学年の学びの成果が表れたとても充実した発表会となりました。大切なことは、平和な世の中、平和な学校を維持していくために、自分にできることを考え行動することです。

生徒総会



7月3日（水）、生徒総会を行いました。議事は、令和5年度の活動報告や令和6年度の活動方針、そして、学校生活の改善についてです。事前の学級討議を踏まえて、活発な質疑応答や意見交換が行われました。長い期間をかけて、入念な準備をしてくれた生徒会役員の皆さん、議長・副議長・書記を務めた3名の3年生、本当にお疲れさまでした。

陶芸活動の歴史を振り返る。

『築炉』

平成元年7月、近隣の廃窯から耐火レンガ約1000枚をいただき、職員と生徒で搬入する。生徒たちは真夏の暑さにもめげず労苦に耐える。また、地域の土建業者のご厚意で4トントラック10台分の土で窯の原型を作ってください。さらに、有田窯業大学岩田先生のご指導で、奈良・平安朝に普及したといわれる半地下式の蛇窯を築く。窯は、校歌の一節からとり「芸術の露」と命名する。

『焼成』

焼き物の極めつけは焼きにある。平成元年8月、11月、2年3月、8月、11月（2回）、3年1月、3月の計8回焼成した。初回は、窯の構造や薪の乾燥、それに気象条件までも悪く、さらに初めての試みゆえ焼成の技法がまずくさんざんな出来栄であった。しかし、黒煙に見え隠れする十六夜の月に風情を覚え、屋間の雷雨に濡れ鼠となりながらお互いに励まし合った感動を私たちは今でも忘れることはない。
(H3窯業各会と語る基礎資料より)

※持続可能な陶芸活動の実現のために、8月の窯焼成はPTA共催行事としました。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

